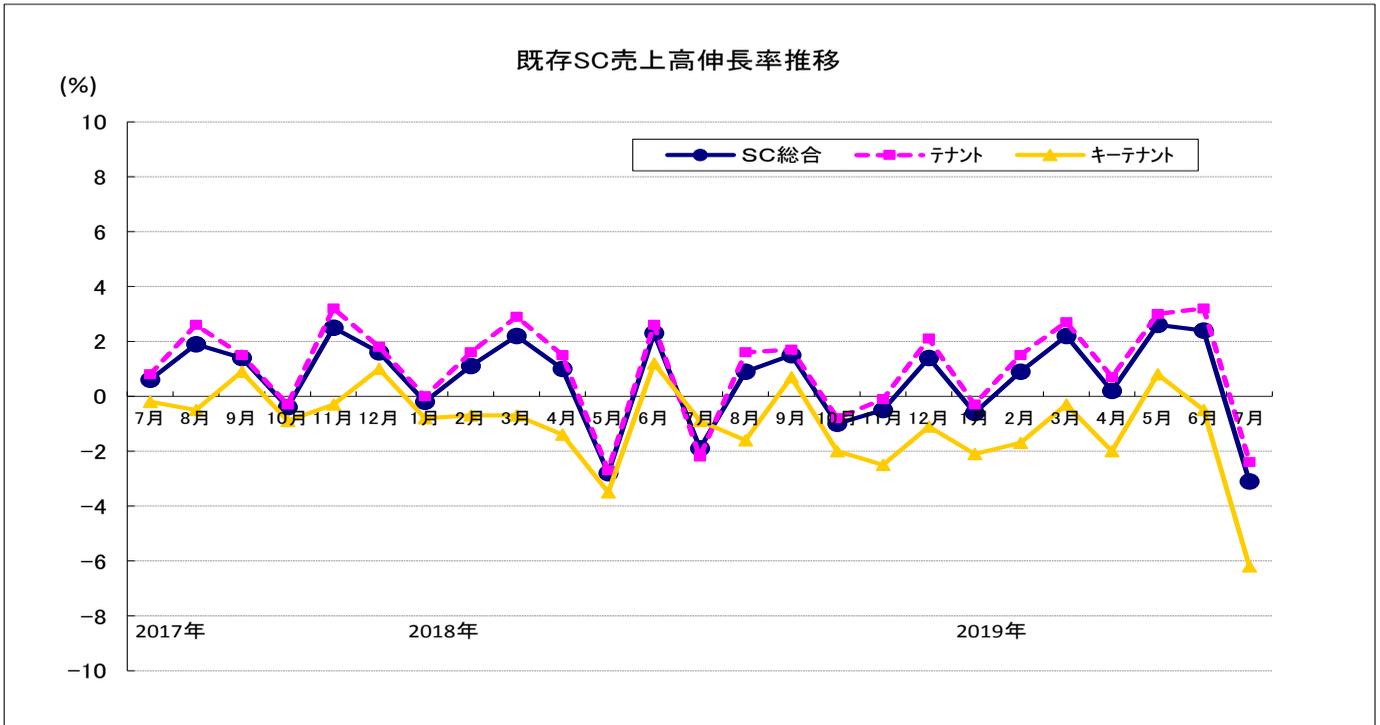


報道関係各位

**SC販売統計調査報告2019年7月 既存SC前年同月比 : ▲3.1%**  
**梅雨明けが遅れ気温上がらず全国的に厳しい結果**

＜2019年7月度・全体概況＞

- 7月度の既存SC売上高はセールを実施するSCが多い中で、梅雨明けが遅れ、気温の低い日が続いたことなどで夏物の衣料品やビール等の飲料品をはじめとした夏物商材の需要が低迷したことや、休日日数が前年より1日少なかったことなどが影響し前年同月比▲3.1%と6ヶ月ぶりに前年を下回る厳しい結果となった。
- 立地別・構成別をみると、全ての立地でテナント、キーテナント共に前年を下回り全国的に厳しい結果となった。総合ではテナントが▲2.4%、夏物商材の不振に加えて青果の相場安の影響もあったキーテナントが▲6.2%とキーテナントの苦戦が顕著だった。なかでも周辺地域でキーテナントをもつ196のSCのうち、前年を上回ったのは13 SCに留まり残りの183 SCは前年比マイナスと業態を問わず全体的に不調で▲6.6%と前年を大きく下回った。
- 立地別・地域別をみると、全9地域中8地域で前年を下回った。なお、中国地方は総合で+0.3%と前年並みだったが、前年の7月が西日本を中心とした豪雨の影響による臨時休館や営業時間の短縮などのため▲11.3%だったことを踏まえると、2年連続で厳しい結果となった。
- 都市規模別・地域別をみると総合で大都市は▲3.0%、その他の地域は▲3.3%で両者ともに前年を下回った。大都市は前年の豪雨の影響の反動もあり西日本で前年を上回る都市がいくつかみられたものの京都市から東に位置する都市では前年を3%以上下回る結果となった。その他の都市では全国的にGMSやSMなどのキーテナントが不調であった。
- 業種毎の販売動向をみると、好調と回答したSCが最も多かった業種は飲食であった。一方で不振との回答が多かった業種は梅雨寒の天候が長引いた影響を受けた衣料品であった。



以上  
この件に関するお問い合わせは 情報企画部:金田・菰田・高橋  
TEL:03-5615-8524

※お手数料をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送りいたしますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当：高橋・村松・大内・浅田  
〔Tel. 03-5615-8524/Fax 03-5615-8539〕  
〔Mail. pr@jcsc.or.jp〕